学位論文審査の要旨

学位申請者	山本　咲子 ジェンダー学際研究専攻2015年度生		論文題目	ケイパビリティ・アプローチ実践のための一試論 ―未婚女性非正規雇用者の生活の質の検討を例に―
審査委員	主　　査:	斎藤　悦子　教　授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否　：　否
	副　　査:	小谷　眞男　教　授		「否」の場合の理由
	副　　査:	荒木　美奈子　准教授		□ ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	小玉　亮子　教　授		□ イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	粕谷　美砂子　教　授 (昭和女子大学)		■ ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博　士	(社会科学)		■ エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Social Sciences)			□ オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本研究は、アマルティア・センのケイパビリティ・アプローチに着目し、ケイパビリティ・アプローチを利用した調査、研究方法を設計することを試みたものである。ケイパビリティ・アプローチは、財の多寡や生活満足度ではなく、人々の行動・状態の達成状況とその達成可能性によって生活の質を評価する。ケイパビリティ・アプローチに関する既存研究は、そのほとんどが理論研究であり、ケイパビリティ・アプローチそのものを利用した実証研究の不足が指摘されていた。本研究は、ケイパビリティ・アプローチを実際の調査に応用し、生活の質を把握するための調査、研究方法の開発を目指すことを第一の目的とした。

研究対象は未婚女性非正規雇用者とし、ケイパビリティ・アプローチを用いて、(1)未婚の女性非正規雇用者が生活において必要とする機能(行動や状態)とその達成状況、(2)未婚女性非正規雇用者のもつ生活資源と生活資源を利用する能力、(3)機能(行動や状態)の達成と達成可能性を正規雇用者との比較により明らかにすることを第二の目的とした。

ケイパビリティ・アプローチを実践する調査として、三段階による方法が提示された。第一段階としてのブレーンストーミング法によるワークショップを用いての生活に必要な機能(行動や状態)の把握、第二段階はワークショップで把握した生活に必要な機能(行動や状態)のリスト作成、第三段階はインタビュー調査を用いた機能(行動や状態)の達成状況と生活資源、生活資源利用能力の関係性の把握である。三段階による調査方法は、生活に必要な具体的な機能(行動や状態)を明らかにでき、リスト化を可能にし、機能(行動や状態)の達成状況や達成可能性を詳細にすることに優れていた。ケイパビリティ・アプローチを調査に応用する1つの方法として、今後の生活研究の発展に大いに寄与するものであると考えられる。

未婚女性非正規雇用者が生活において必要とする機能(行動や状態)は、「収入を得るために働くこと」「空腹を満たすための食事」「心身の疲れをとるために寝る」「ストレスを発散する」「情報収集する」等があげられ、正規雇用者との比較から非正規雇用者にのみあげられたのは「転職するための就職活動」「他者への配慮」であった。さらに、非正規雇用者は感情表現や自然との共生に関しては全く回答がなかった。生活資源に関しては、最も不足しているものは時間であり、次に金銭であった。資源利用能力としては、モチベーション、スキル、知識が見いだされ、モチベーション不足が最も多かった。正規雇用者との事例比較では、非正規雇用者は選択できる機能(行動や状態)が少ない上、その達成においても脆弱性があることが明らかになった。

以上、ケイパビリティ・アプローチを利用した本研究結果から未婚女性非正規雇用者の生活の質の向上のために、(1)最低限の生活水準を満たすために必要な基本的ケイパビリティを保障する政策、(2)生活における主体性を導く教育、(3)ディーセントワークの実現と生活の共同化の推進の3点が必要であると結論付けられた。

本審査委員会は2020年11月18日に設置され、11月26日に第1回審査委員会、2021年1月20日に第2回審査委員会が開催された。これらの審査委員会では、ケイパビリティ・アプローチの説明に関して、センとヌスバウムのケイパビリティの概念をより詳細にすることや研究対象である未婚女性非正規雇用者の先行研究の追加、本研究で使用したケイパビリティ概念の整合性が問われ、審査委員の指摘に応じ、大幅な修正が行われた。審査委員会は本研究がケイパビリティ・アプローチを用いた実証研究として、生活の質評価の新たな方法を提示することができたこと、未婚女性非正規雇用者の生活実態を正規雇用者との比較を通じて詳細に明らかにしたことを高く評価した。